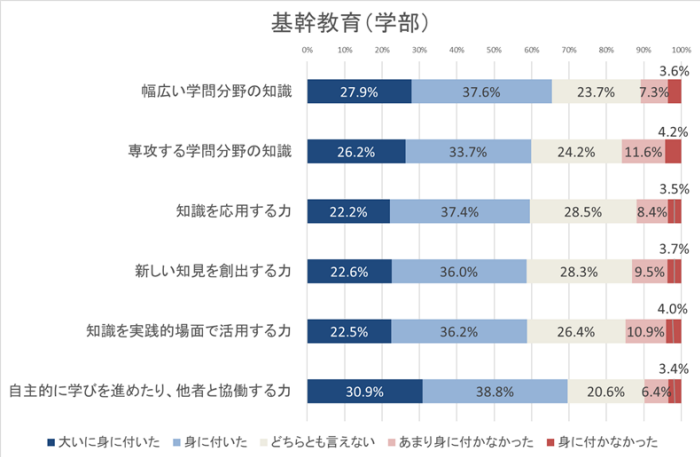
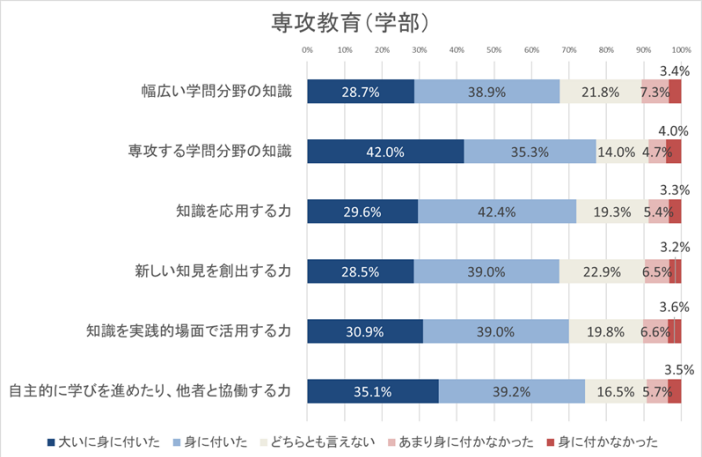
令和３年度九州大学卒業生調査ニュースレター

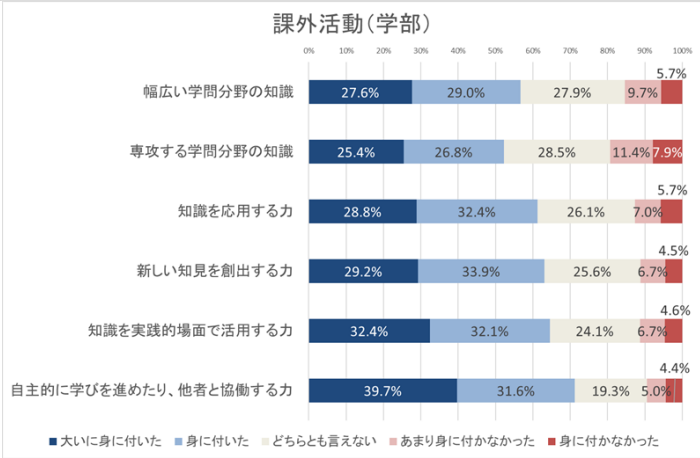
2022.11.30

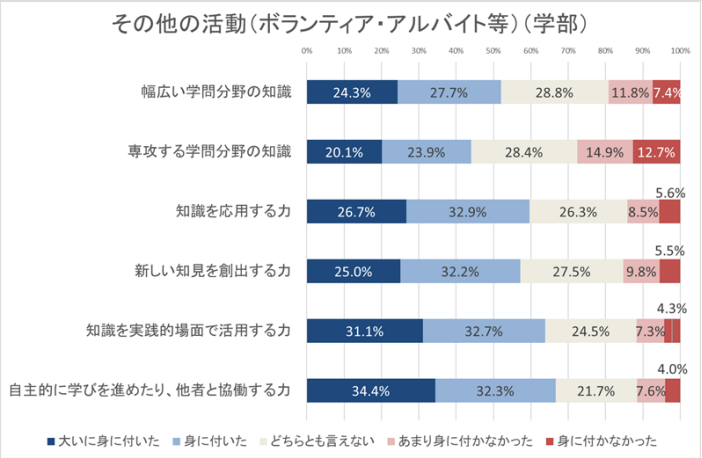
このニュースレターは令和３年度卒業生・修了生を対象とした「九州大学卒業生調査」の結果を分かりやすくまとめたものです。調査結果の詳細については、「令和３年度卒業・修了生調査分析結果報告書」（https://ueii.kyushu-u.ac.jp/img/stakeholder/2021-report.pdf）をご確認ください。

1. 教育達成についての自己評価





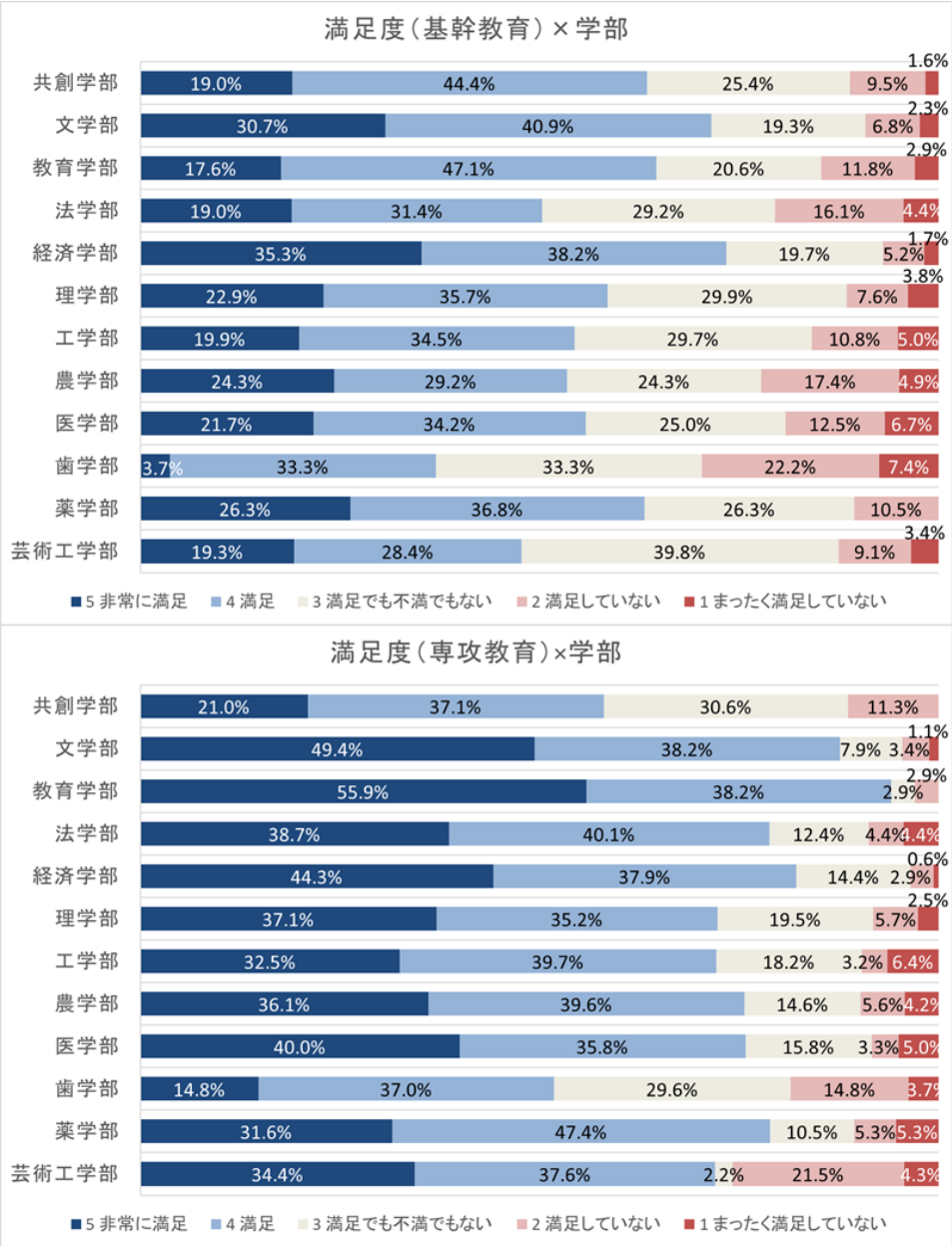




まず、「基幹教育」「専攻教育」「課外活動」「その他活動（ボランティア・アルバイト等）」の４つの項目ごとに、教育達成についての自己評価をたずねた結果を紹介します。

基幹教育は〈幅広い学問分野の知識〉や〈自主的に学びを進めたり、他者と協働する力〉の評価が高く、専攻教育は〈専攻する学問分野の知識〉を中心に全体的に評価が高かったです。また、課外活動やその他の活動（ボランティア・アルバイト等）では特に〈知識を実践的場面で活用する力〉〈自主的に学びを進めたり、他者と協働する力〉などが身に付いたと評価されていました。

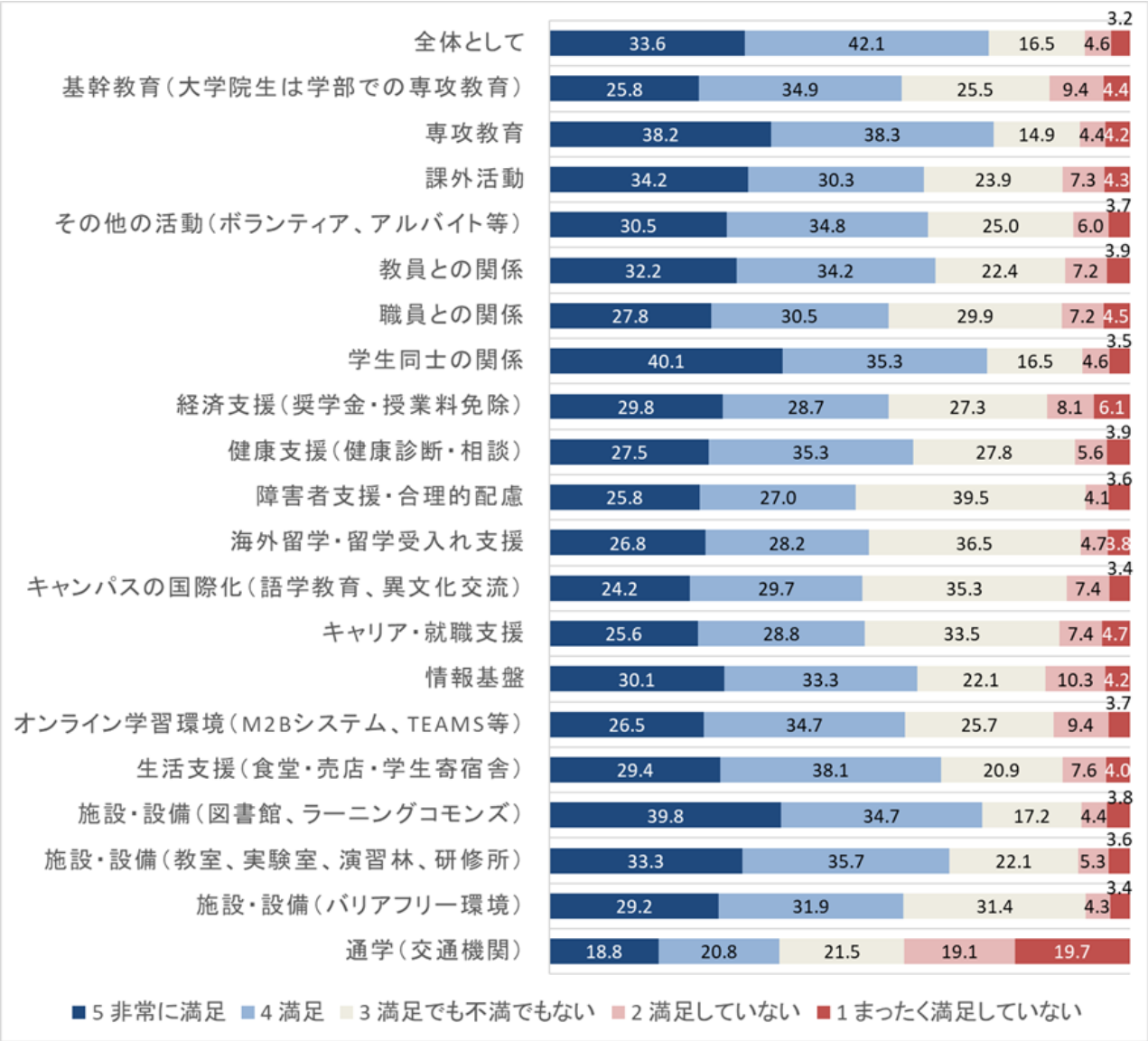
★学部ごとの基幹教育と専攻教育の満足度



このグラフは、学部ごとに基幹教育と専攻教育の満足度を集計したものです。全体的には基幹教育よりも専攻教育の満足度が高くなっていますが、学部ごとの集計をみると、専攻教育の満足度が高くても基幹教育の満足度が低い学部など、学部によって満足度の差が生まれていることがわかります。

この結果からは、基幹教育が専攻教育にどのようにつながっているかが、満足度の差に影響を与えていることが考えられます。基幹教育を有意義なものとするためには、基幹教育を学ぶことにどのような意味があるのかについて意識することが重要であり、またそれが意識できるような基幹教育の設計が必要だと考えられます。

2. 満足度



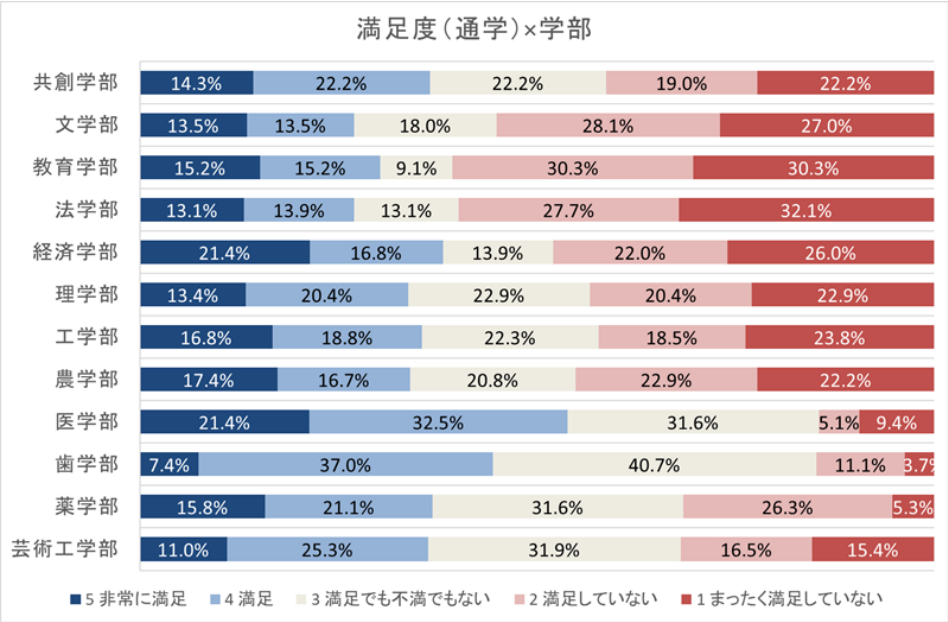
つづいて、20 項目＋「全体として」の全 21 項目にわたっての満足度を 5 段階でたずねた結果を紹介します。

まず、「全体として」は、「非常に満足」と「満足」をあわせて 75.7%になっており、全体的に非常に高い満足度になっていました。

各項目の中で特に満足度が高くなっていたのは、「専攻教育」「学生同士の関係」「施設・設備（図書館、ラーニングコモンズ）」でした。

一方で、「通学（交通機関）」については、他の項目と比べて「満足していない」「全く満足していない」の回答の割合が高くなっていました。この点については、つぎの項目でより詳細に見ていきたいと思います。

★通学項目の満足度の低さについての分析



このグラフは、「通学（交通機関）」の満足度を学部別に集計したものです。特に伊都キャンパスに通う学部の満足度が顕著に低くなっていることがわかります。自由回答の内容からは、大学に行くための交通費が高いことなどが不満の要因になっているようです。

一方で、先ほど見たように図書館等の施設・設備の満足度は非常に高くなっており、学生は大学の施設には満足しているものの、大学に行くための通学手段には不満を持っているという状況にあります。このことは、大学生活での学びや体験を考えたうえで、非常にもったいない状況にあるといえるのではないでしょうか。

さらに、コロナ禍をきっかけとしたリモート授業の導入と交通アクセスの悪さが相まって、「学生のキャンパス離れ」も起こっている可能性があります。九州大学で 2020 年に行われた「新しい生活様式のもとでの大学授業の実態と意識に関する全学調査」では、「通学の負担がある」ことが対面授業を希望しない学生の理由として一定数を占めていました。学生の通学への不満については、大学生活での学生の学び・体験を最大化するための大学キャンパスのあり方の問題として、考えることが求められているのではないでしょうか。

魅力的なニュースレターにしていくために、皆さんのご意見を是非お聞かせください。
九州大学教育改革推進本部メールアドレス　innovation@ueii.kyushu-u.ac.jp

教育改革推進本部九州大学ステークホルダー調査（KU-SHS）学生班
髙嵜浩平（人間環境学府・博士後期課程）

※教育改革推進本部九州大学ステークホルダー調査（KU-SHS）学生班は、学生による大学運営への貢献を促進する目的で、令和４年６月に設置されました。
学生班は、教育改革推進本部長（総長）の委嘱を受けて、九州大学ステークホルダー調査の分析・報告・広報を担当しています。